

2023年卒
Vol.07

5月1日時点の就職活動調査

キャリアス就活 2023 学生モニター調査結果 (2022年5月発行)

企業の採用広報開始から2カ月。2023年卒学生の就職活動はどのように進んでいるだろうか。5月1日現在のキャリアス就活・学生モニターの就職活動状況について調査を行った。内定状況のほか、今後の活動方針や、内定企業に求める情報など、多岐にわたる項目を調査した。前年同期調査や先月調査との比較を中心に、全体的な活動状況を確認したい。

1. エントリー社数とセミナー参加社数

- 一人あたりのエントリー社数の平均は24.7社。前年同期調査(27.1社)を2.4社下回る
- セミナー参加社数の平均は、オンライン14.6社、会場型4.0社。いずれも前年より増加

2. 選考試験の受験状況

- ES提出社数は平均13.4社。筆記9.2社、面接7.4社。いずれも前年同期を下回る
- 本選考応募企業の約7割がプレ期に興味を持った企業。「3月以降に興味」は3割

3. 5月1日現在の内定状況

- 内定率は65.0%。前年同期実績(58.4%)を6.6ポイント上回る
- 内定企業の6割強(61.8%)が「インターンシップ参加企業」
- 就職先を決めて活動を終了したのは、モニター全体の27.5%。理系は4割超(40.4%)

4. 内定を得た企業の業界

- 内定業界は「情報処理・ソフトウェア」に集中(35.4%)。2位「建設・住宅・不動産」(16.6%)

5. 内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

- 入社への意思決定に、対面でのフォローを必要とする学生は7割
- 必要なフォローは「社員との交流機会」が最多。「他の内定者との交流機会」が続く

6. 就職活動継続学生の動向

- 現在選考中の企業は平均4.6社。前年同期(4.5社)とほぼ同数
- 就職活動を終えたい時期は6月に集中。6月前半・後半あわせて4割以上(46.7%)

7. 就活川柳

- 「インターン 休む間もなく 本選考」
- 「前日に 作った嘘は 見破られ」

※「インターンシップ(就業体験を伴う複数日程のプログラム)」に限定せず、1日以内のプログラムも含めて調査
※「内定」には、内々定を含む

調査概要

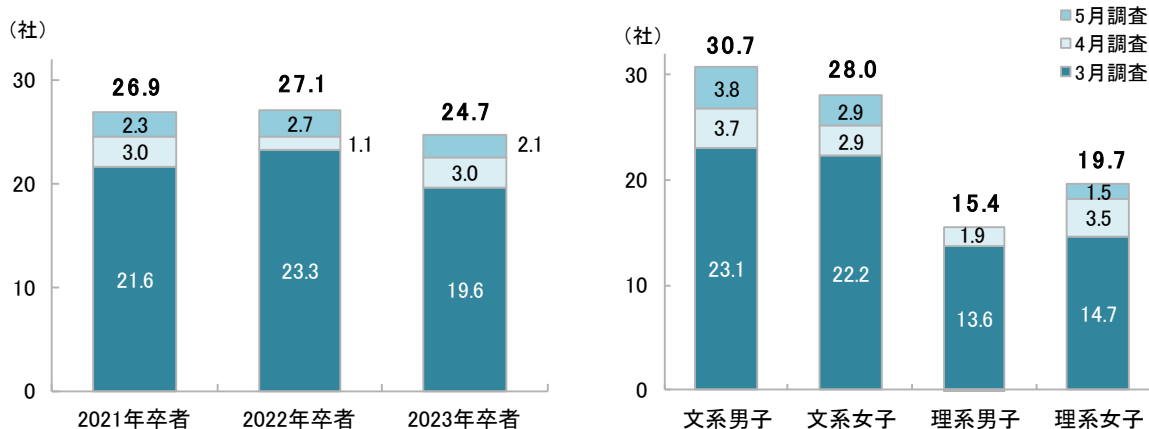
調査対象 : 2023年3月に卒業予定の大学4年生(理系は大学院修士課程2年生含む)
回答者数 : 1,213人(文系男子396人、文系女子361人、理系男子326人、理系女子130人)
調査方法 : インターネット調査法
調査期間 : 2022年5月1日~5日
サンプリング : キャリタス就活2023学生モニター

1. エントリー社数とセミナー参加社数

採用広報解禁から2カ月が経過した、5月1日時点での就職活動状況を調べた。

まず、一人あたりのエントリー社数の平均は24.7社。今年は3月時点から前年同月を下回っていたが、この1カ月の伸びは2.1社にとどまり、前年同期実績との差が広がった。属性別では、文系は先月より約3社増えた一方で、理系は伸びが限定的。理系学生の活動が落ち着いてきていることが見て取れる。

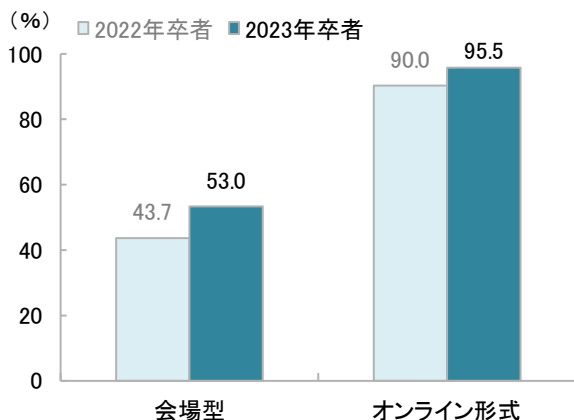
＜エントリー社数＞



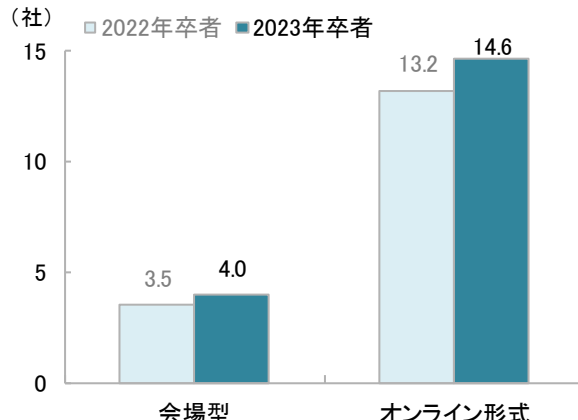
企業セミナー（会社説明会）の参加状況については、開催形式ごとに尋ねている。「会場型」に参加経験のある学生は前年同期より 10 ポイント近く増え、53.0%に。「オンライン形式（WEB セミナー）」の参加経験者も前年より増え、全体の 9 割超に上る（95.5%）。コロナ禍以後、企業研究はオンラインを中心に進んできたが、行動制限の緩和に伴い対面での機会も増えてきている。

参加社数を見てみると、会場型が平均 4.0 社、オンライン形式は平均 14.6 社。前年同期と比べてそれぞれ増加し、積極的な姿勢が読み取れる。

＜企業セミナー 参加・視聴経験＞



＜企業セミナー 参加・視聴社数＞



＜企業セミナー参加・視聴社数／属性別＞

	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
会場型参加社数	4.0	3.5	4.6	4.0	3.3	2.9
オンライン形式視聴社数	14.6	13.2	15.9	17.2	11.3	11.5

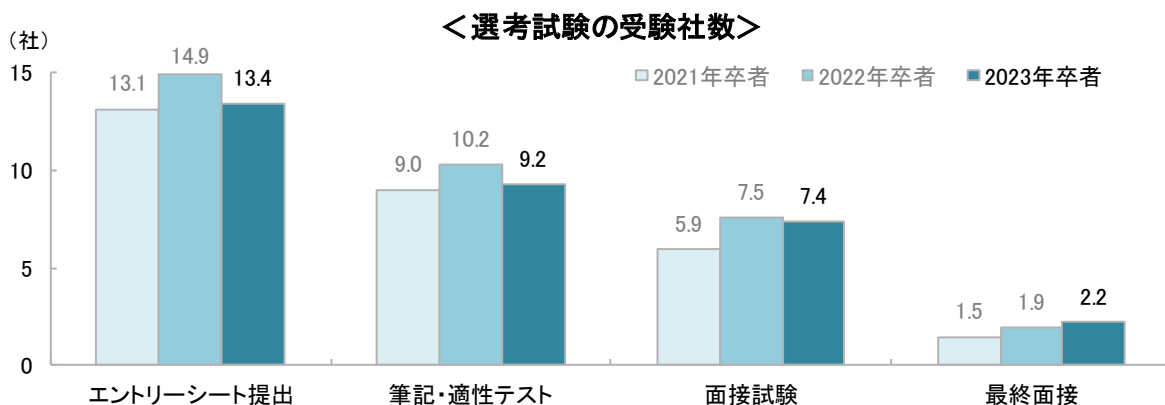
2. 選考試験の受験状況

続いて、選考試験の受験状況を見てみよう。まず経験率は、エントリーシート (ES)、筆記・適性テスト、面接試験、最終面接のいずれも、前年実績を上回っている。特に最終面接は前年同期から約 7 ポイント増え、4 人に 3 人以上が経験したと回答 (76.8%)。選考の早期化に伴い、最終段階まで進むペースが早まったことが読み取れる。

経験率が上昇した一方で、一人あたりの受験社数は減少している。ES の一人あたりの平均提出社数は 13.4 社で、前年同期 (14.9 社) より 1.5 社少ない。筆記・適性テスト、面接試験についても、エントリー社数の減少に伴い前年同期実績を下回る。但し、最終面接は前年を上回っており (1.9 社→2.2 社)、進行の早さがここからも感じ取れる。

<選考試験の受験状況>

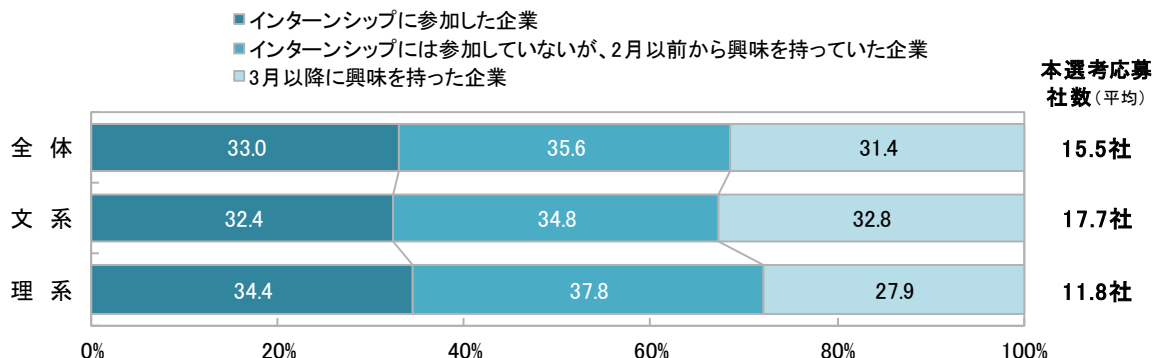
	全体	(前年全体)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子	(%)
エントリーシート	94.6	93.5	95.9	96.7	91.1	93.8	
筆記・適性テスト	94.0	93.2	94.7	95.3	92.3	92.3	
面接試験	92.4	90.1	93.4	94.7	88.7	92.3	
最終面接	76.8	69.9	74.4	78.9	77.0	77.7	



※「最終面接」は、「面接試験」受験者を分母に算出。それ以外は、それぞれ受験者を分母に算出

ES提出など本選考に応募した企業との接点について尋ねた。「インターンシップ^(※)に参加した企業」(33.0%)、「インターンシップには参加していないが、2月以前から興味をもっていた企業」(35.6%)を合わせると、本選考応募企業の7割近く(計68.6%)は、採用広報開始前のプレ期に出合ったり、興味を持っていたりした企業だったことがわかる。理系学生では7割を超える(計72.2%)。

<本選考に応募した企業の内訳>



3. 5月1日現在の内定状況

5月1日の調査時点で内定を得ている学生は全体の65.0%。先月(4月1日、46.5%)からの1カ月に18ポイント余り上昇し、6割を超えた。前年同期(58.4%)を6.6ポイント上回り、先月までに引き続き、早いペースで進行していることがわかる。ただ、先月調査に比べれば前年同期との差は縮まった(8.3ポイント差→6.6ポイント差)。

内定を得た企業の属性を確認すると、6割強(61.8%)がインターンシップ(※)に参加した企業だった(グラフは次ページに掲載)。3月以降、月を追うごとに比率は下がっているが、依然としてインターン企業の内定が中心で、それ以外の通常の内定はまだ多くはないことがわかる。

内定取得学生のうち、就職先を決めて就職活動を終了したのは42.2%。内定取得後も半数以上(51.0%)は就職活動を継続していると回答した。

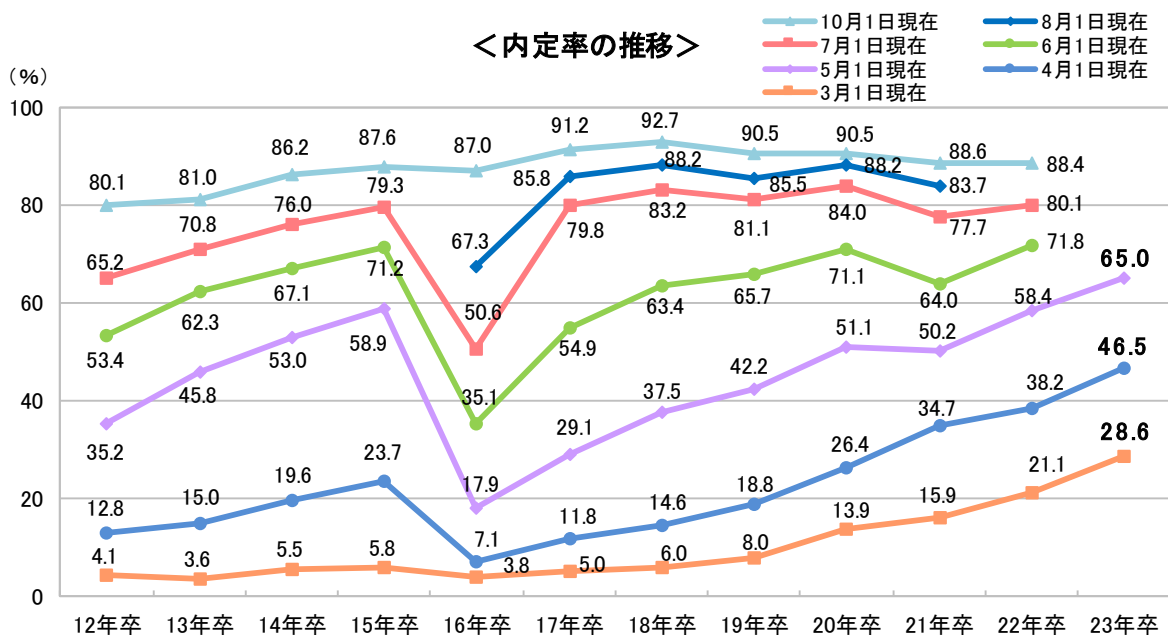
(※1日以内のプログラムも含めて調査)

＜5月1日現在の内定状況＞ *「内定」には、内々定を含む

		全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定あり		65.0 (58.4)	60.6 (51.3)	65.7 (58.9)	68.1 (64.3)	69.2 (64.7)
内定なし		35.0 (41.6)	39.4 (48.7)	34.3 (41.1)	31.9 (35.7)	30.8 (35.3)
内定者のうち	就職先を決定し活動終了	42.2 (40.1)	33.8 (23.2)	28.7 (28.2)	61.7 (61.4)	52.2 (57.8)
	活動は終了したが複数内定保持	6.5 (5.9)	4.6 (7.1)	8.4 (7.7)	6.3 (5.0)	6.7 (1.1)
	進学などの理由で就職活動を中止	0.4 (0.7)	0.4 (0.0)	0.0 (1.0)	0.9 (0.9)	0.0 (1.1)
	就職活動継続	51.0 (53.3)	61.3 (69.6)	62.9 (63.2)	31.1 (32.7)	41.1 (40.0)

	全体	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
内定社数／平均	2.1 (1.9)	2.1 (2.0)	2.0 (1.9)	2.2 (1.9)	2.3 (1.8)

※ () 内は前年(5月1日現在)の数値

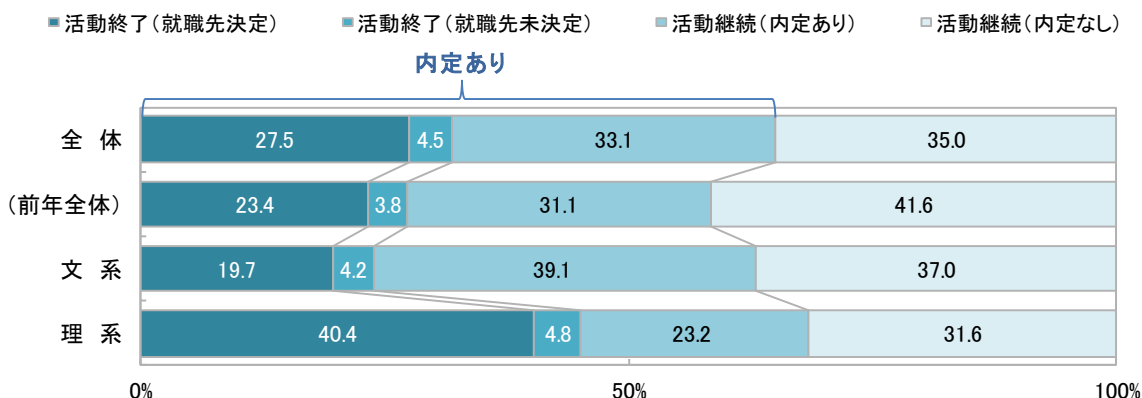


※15年卒までは選考解禁は4月、16年卒は8月、17～23年卒は6月 ※15年卒以前と22年卒は8月のデータはなし

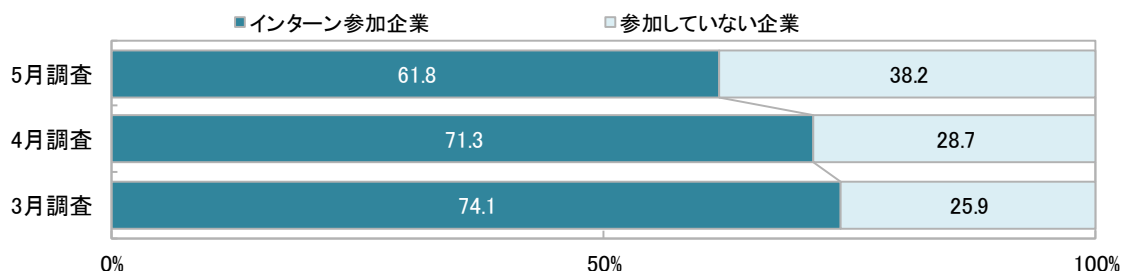
モニター学生全体を分母にして活動状況の分布を見てみる。就職先を決定して就職活動を終了した者の割合は 27.5%。複数内定を保留しているなど未決定である者 (4.5%) を合わせると、終了者の割合は約 3 割 (計 32.0%)。残りの 7 割近く (計 68.1%) が活動中となる。

但し、文理で差が大きく、文系の終了者は約 2 割 (計 23.9%) であるのに対し、理系学生は 4 割超が終了したと回答した (計 45.2%)。

<活動状況の分布>



<内定を得た企業のインターン参加>



※1日以内のプログラムも含む

4. 内定を得た企業の業界

内定を得ている学生に内定企業の業界を尋ね、上位業界をまとめた (全 40 業界。複数回答あり)。

「情報処理・ソフトウェア」(35.4%) が先月調査に引き続き 1 位。ポイント数も伸び (4 月: 32.8% → 35.4%)、この 1 カ月でさらに多くの内定が出た様子が見える。2 位は「建設・住宅・不動産」(16.6%) で、理系で多い (23.1%)。全体の 3 位は「調査・コンサルタント」(16.1%)。上位 3 位は前年同期調査と同じ順位。

<内定を得た業界 (上位 5 業界) >

全 体		文 系		理 系	
1	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト ①	35.4	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト	31.2	情報処理・ソフトウェア・ゲームソフト
2	建設・住宅・不動産 ②	16.6	調査・コンサルタント	16.4	建設・住宅・不動産
3	調査・コンサルタント ③	16.1	その他サービス	14.9	電子・電機
4	電子・電機 ⑦	12.0	建設・住宅・不動産	12.4	機械・プラントエンジニアリング
5	その他サービス ④	10.3	商社 (専門)	10.9	調査・コンサルタント

※○の中の数字は前年同期調査の順位

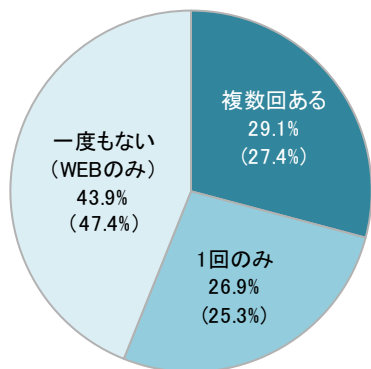
※「その他サービス」= 介護・福祉サービス、アウトソーシングなどのサービス業

5. 内定企業への意思決定に必要なフォローや情報

内定を得た企業について、セミナーや選考などで対面での接点を持っていたかどうかを尋ねた。最も多いのは「一度もない (WEB のみ)」で、4 割強を占める (43.9%)。前年同期調査 (47.4%) よりやや減少したものの、「1 回のみ」が 3 割近くに上るなど (26.9%)、対面での接点がほとんどないまま内定に至るケースが大半だ。その分、入社 の意思決定に際し、対面でのフォローを必要とする学生は多く、「対面でのフォローは必要」(40.6%)、「内定までに対面での接点がなければ必要」(29.4%) を合わせて 7 割に上る (計 70.0%)。

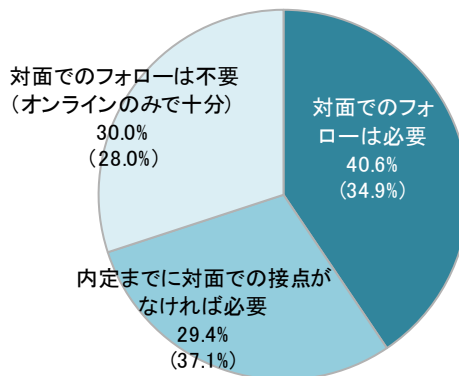
対面かオンラインかの形式に関わらず、具体的に必要だと思うフォローを尋ねたところ、「社員との交流機会」が圧倒的に多く、7 割超が選んだ (71.5%)。現場の社員との対話を通じ、具体的な仕事内容や社風、働き方の実態などを確認したいのだろう。次いで、「他の内定者との交流機会」(48.0%)、「人事担当者との面談」(46.9%) が 4 割強で続く。「フォローは必要ない」は 7.0% とわずか。

＜内定企業の対面接触経験＞



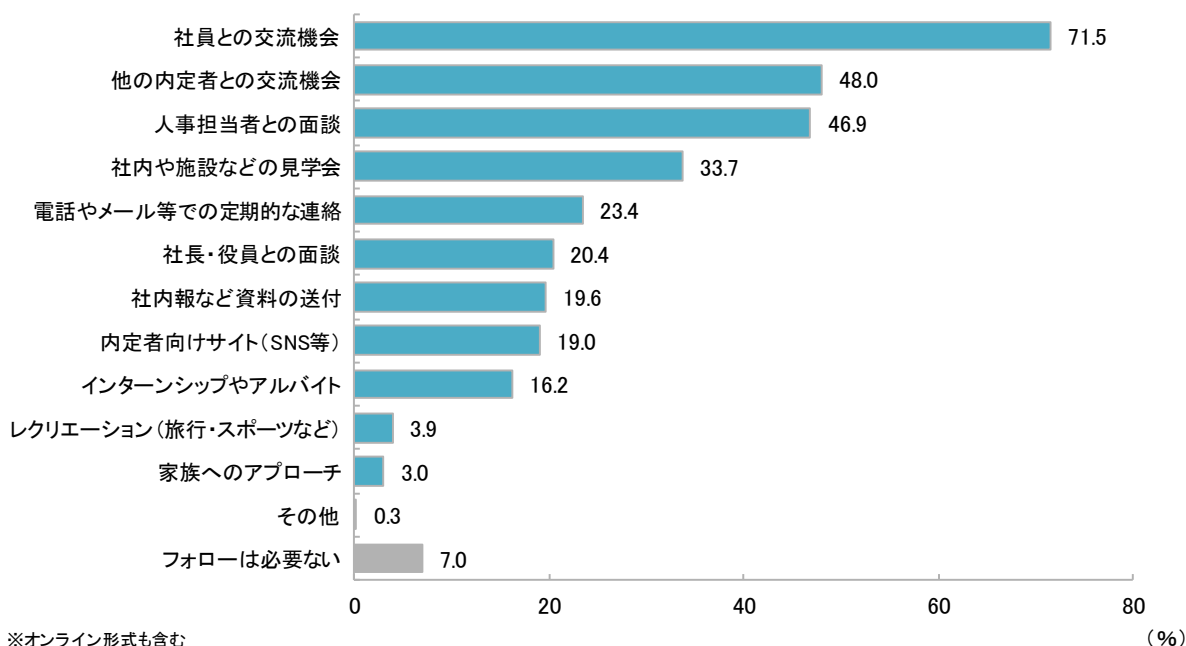
※インターン、セミナー、面接などでの接点
※()内は2021年5月調査の数値

＜対面でのフォローの必要性＞



※()内は2021年5月調査の数値

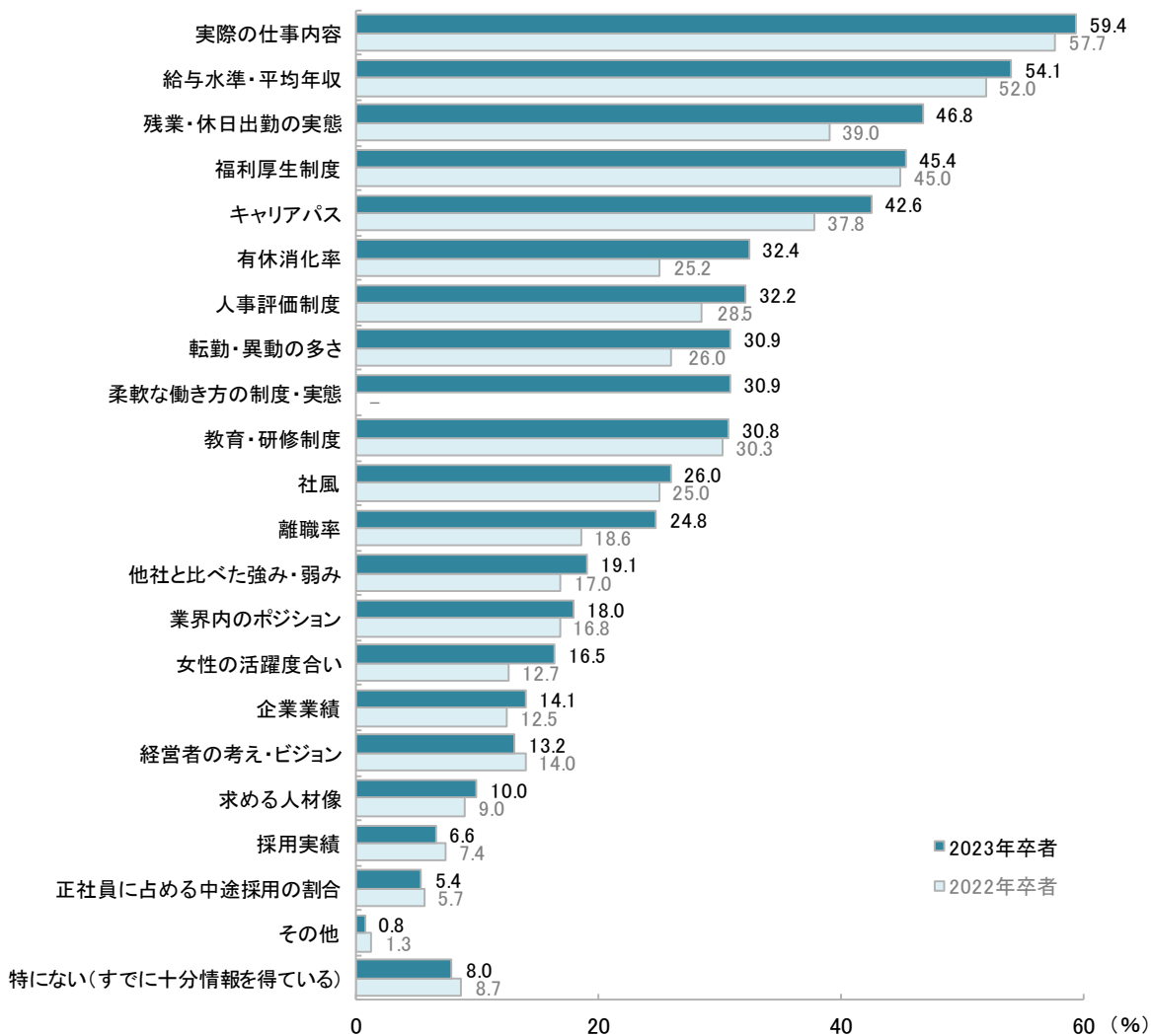
＜内定企業への意思決定に必要なと思うフォロー＞



さらに、内定企業についてもっと知りたい情報を尋ねた。最も多いのは「実際の仕事内容」で、約 6 割が選んだ (59.4%)。また、「給与水準・平均年収」(54.1%)、「残業・休日出勤の実態」(46.8%)、「福利厚生制度」(45.4%) などが上位項目に挙がっており、選考中には聞きづらい情報も、入社意思決定にあたっては、しっかり確認したいという意向がうかがえる。

前年調査に比べ全体的にポイントが上昇。中でも「残業・休日出勤の実態」「有休消化率」など、働き方に関する項目の伸びが目立ち、働きやすい環境を求める傾向が強まっていると見られる。

＜内定企業についてもっと知りたい情報＞



■具体的に知りたい情報や、必要だと思う内定後フォロー

- 社員の方々との対面での交流や、実際の職場見学などのフォローが必要だと思います。 <文系女子>
- 実際の働き方や給料について、社員から詳しく聞きたい。 <理系男子>
- 入社後の働き方のイメージを掴むため、キャリアパスや人事評価等は特に知りたい。 <文系男子>
- サービス残業がないかということなど、特に働き方の部分を知りたい。 <文系女子>
- どのような点を評価し、どのような活躍を期待して採用に至ったのかを教えてもらえると良い。 <文系男子>
- 他の内定者との交流をもちたい。 <理系男子>
- 勤務地や転職の有無、配属部署が早めに知りたい。 <文系女子>
- キャリアパスと転職が一番知りたいです。 <理系男子>

6. 就職活動継続学生の動向

内定保持者を含め就職活動を継続している学生（全体の 68.1%）の動向を確認したい。

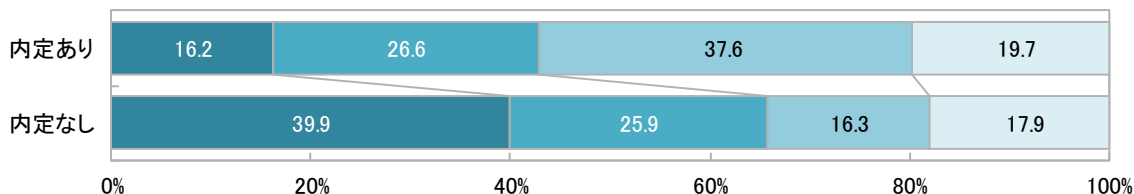
現在選考を受けている企業数は平均 4.6 社で、前年同期（4.5 社）とほぼ同数。一方で、今後の予定社数は、エントリー、セミナー参加、ES 提出とも前年調査をやや下回る。

但し、内定の状況によって温度差が見られる。就職活動をどのように進めていくかという方針・戦略を尋ね、内定有無別に集計した。内定を持ちながら活動している学生では「現在選考が進んでいる企業に絞って活動する」という回答が一番多いが（37.6%）、まだ内定のない学生では「新たな企業を探しながら、幅広持ち駒企業を広げていく」が最も多く、約 4 割を占める（39.9%）。内定獲得に向け、新たな企業に目を向けようとする意欲的な姿勢が目立つ。

	全 体	(2022年卒者)	(2021年卒者)	文系男子	文系女子	理系男子	理系女子
現在選考中の企業数	4.6	4.5	5.5	5.4	5.0	3.1	3.8
今後のエントリー予定社数	2.6	3.0	2.9	3.1	2.8	1.8	1.5
今後の企業セミナー参加予定社数	2.1	2.2	1.5	2.3	2.2	1.9	1.8
今後のエントリーシート提出予定社数	2.6	2.8	2.9	3.2	2.6	2.2	1.5

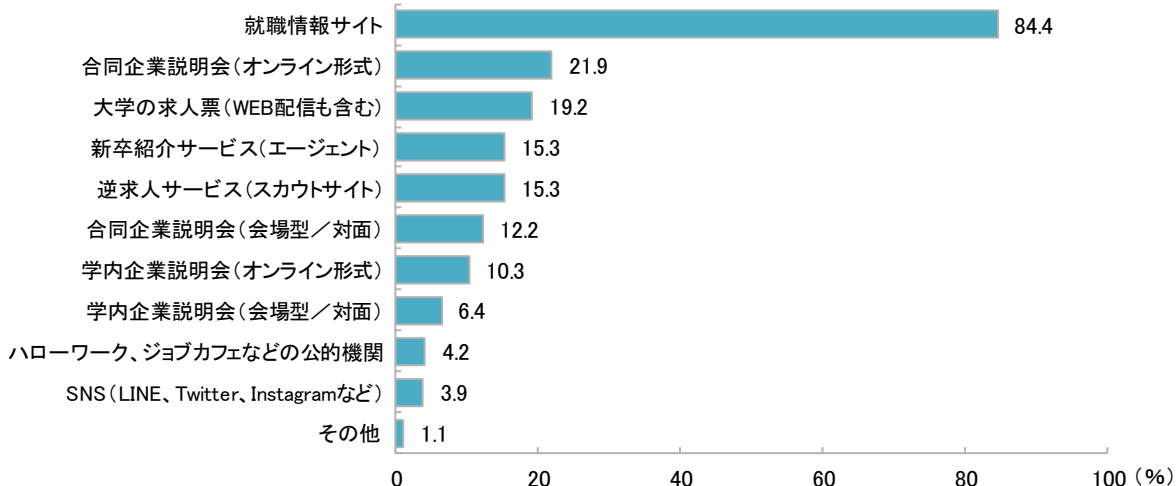
＜今後の就職活動の方針・戦略＞

- 新たな企業を探しながら、幅広く持ち駒企業を広げていく
- これまで興味をもった企業(エントリーした企業)を中心に活動する
- 現在選考が進んでいる企業に絞って活動する
- 志望度の高い企業に絞って活動する



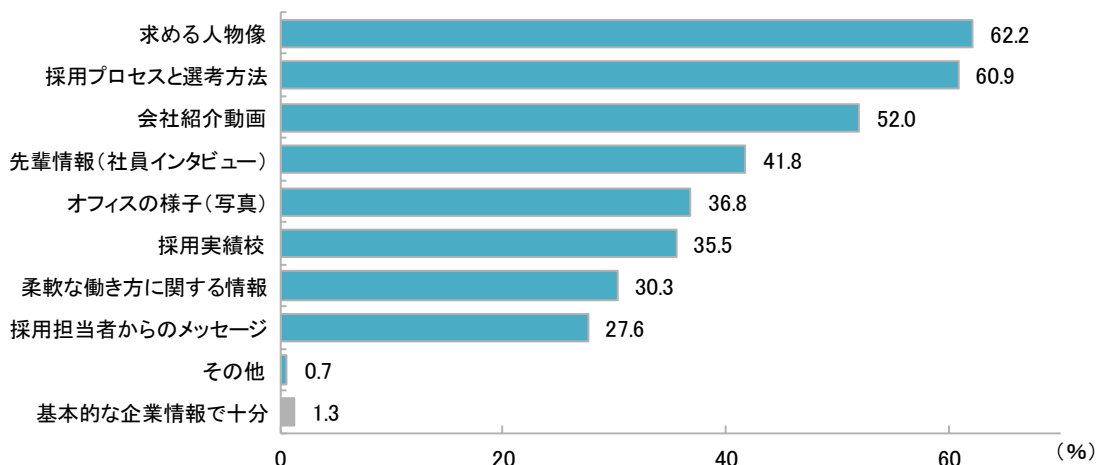
内定有無に関わらず、今後のエントリー予定社数を1社以上と回答した学生に、新たな企業を探す手段（ツール）を尋ねた。「就職情報サイト」が圧倒的に高く（84.4%）、企業探しのメインツールとして引き続き利用されていることがわかる。

＜新たな企業を探す手段＞



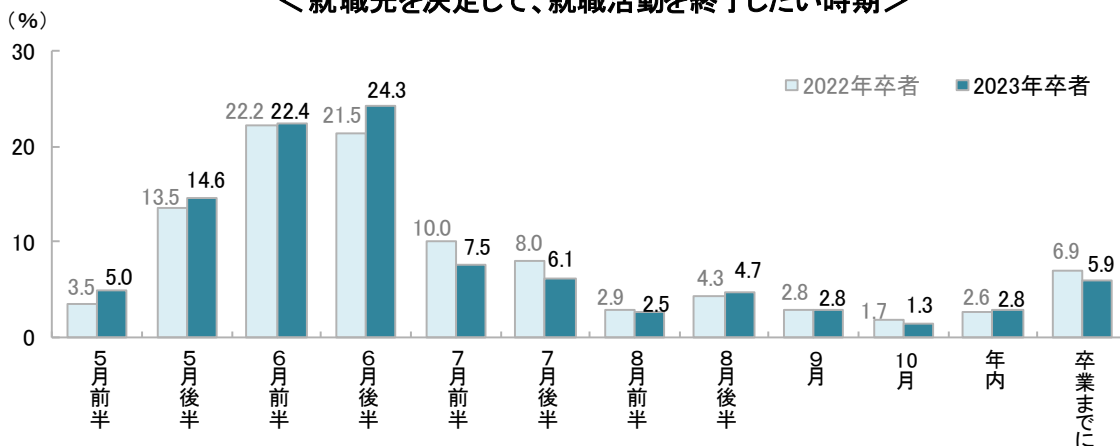
就職情報サイトで企業を探していると回答した学生に、基本的な企業情報（会社概要、募集要項など）のほかにどんな情報を求めているのかを重ねて尋ねた。「求める人物像」(62.2%)と「採用プロセスと選考方法」(60.9%)が6割を超えて多く、「会社紹介動画」が半数強で続く(52.0%)。「基本的な情報で十分」という学生はほとんどおらず(1.3%)、就職情報サイトからできるだけ多くの情報を得て、エントリーするか否かを判断したいと考えている様子が見えてくる。

＜就職情報サイトで企業を探す際に求める情報＞



就職先を決定して就職活動を終了したいと思う時期を尋ねた。前年に引き続き「6月」と回答した学生が多く、前半・後半を合わせて4割以上が選択(計46.7%)。選考解禁後の早い時期に終了したいと考えている学生が多いことがわかる。6月後半までを合計すると6割を大きく超え(計66.3%)、前年(計60.7%)を上回る。

＜就職先を決定して、就職活動を終了したい時期＞



■就活継続学生の声

- いいところまで行っても、なかなか内定はいただけない状況にやや焦りを感じている。 <文系男子>
- 持ち駒がかなり減ってしまったが、企業探しに少し苦戦している。 <文系女子>
- 本命企業の選考に落ちてから、やりたいことが不透明になってきている。 <理系男子>
- 最終面接で緊張してしまい、上手く伝えられずに落ちてしまうことが多い。 <文系女子>
- 内定を1社獲得しているため、以前よりかは楽な気持ちで就活に取り組んでいる。 <文系男子>
- 内々定はいただいているが、本当に行きたいところではないような気がする。 <理系男子>
- 就職活動を続けていたら、入社したいと思えるような企業を見つけた。先は明るいと感じている。 <理系女子>

7. 就活川柳

ここまでの就職活動で感じたことを、思いつくまま川柳に詠んでもらった。全 578 作品が寄せられた中から、ユーモアや風刺の効いた一例を紹介したい。

企業の採用意欲が回復し、就職環境が改善している中でも、思うように活動が進まないことへの嘆きや、早期化への戸惑いなど、どれも等身大の就活生の心情がよく表れている。

